北方經濟研究所報

本紙一部金六錢　一ケ年[illegible]
印刷所　株式會社大同合印刷所
編輯人兼發行人　岡田弘之
印刷人　赤井新次郎
發行所　小樽經濟專門學校　北方經濟研究所
電話二〇四番　振替[illegible]

資金效率化と個別價格制度

木村重義

一…

去る九月二十七、八日[illegible]研究會議が[illegible]で催されたが、その際取り上げられた三問題のうち一つは「資金效率化」であつた。かれてそのために準備されてゐた委員會が[illegible]を作成し、研究會議に於てはそれを[illegible]として論議が行はれた。その結果は、會議に於ける論議の趣旨を取り入れて整理されて、然るべき當局にやがて提出される筈である。

委員會は資金效率低下の原因を七つを擧げ、その一つに「[illegible]」と[illegible]。[illegible]

即ち、

一、個別價格の方法は、如何に運用しても、また如何なる補助手段を併用するも、一定經營給付に對して費用を增大せしむるか、若くは費用減少を著しく困難ならしめる

二、個別價格の方法に代るより良き方法がある

の二點が先決問題である。

ここで先づ個別價格の概念を明確にしておくべきである。個別價格とは個別價格を[illegible]に或は少くとも公定價格に特定された製品の個別價格であると解する。それは[illegible]

[illegible]するとしても、個別價格の方法に於ては必ずしもさうではなくて、例へば原價を適正として採用した場合とすると、實際原價がそれよりも遙かに高かつたやうな時には、適正利潤が加算されても、なほ損失を被る場合があり得る。いづれにせよ、價格決定に於ける原價の比較と個別價格の方法とは一應別問題である。

普通の場合、[illegible]

も、[illegible]に於て時々その傾向が實例に現れて來ることは疑ひない。もしそれで個別價格の方法に代るより良き方法があるならそれが用ひられてしかるべきである。委員會案は、先に引用した點から見られるとほり、資金效率化の手段として[illegible]を[illegible]なるものの採用を[illegible]してゐるのである。個別價格の方法は實際にかなりの程度行はれ來たつたので、その缺點及び長所は比較的よく知られてゐる。[illegible]の具體的な場合について、その實施上の諸問題を、[illegible]明らかにして、[illegible]。新しきものと[illegible]を比較する時には、新しきものの方は未だ試みられてゐないので、從つてその缺點が、またその長所が、充分理解されてゐない場合が多いと[illegible]

三…

[illegible]

四…

ただし、資金效率化の立場からのみ云ふならば、[illegible]

[illegible]

時觀

決戰のために今や日本の國民經濟に課せられてゐる問題は[illegible]

[illegible]

支配・指導・獨裁

高橋次郎

[illegible]

（一九四四・十二・二〇）

空襲時の生産對策

岡本理一

一

すでに我が本土の一部に對し[illegible]

[illegible]

二

先づ最初、しばしば論議される企劃の「[illegible]」について少々述べよう。

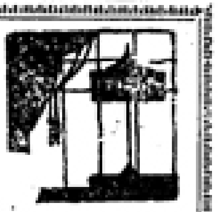
[illegible]

三

[illegible]

四

[illegible]



書評

中井省三著「大東亞交易經濟論」

堀江保藏著「日本近世百年史」

玉井武

[illegible]

北方の窓

石狩の鮭

[illegible]

義勇隊の擴充

[illegible]

除雪隊增强

[illegible]

新炭種資源

[illegible]

小樽港の鰊釣

[illegible]

研究所報

一、十月二日　庶務打合會

打合事項

（イ）研究所上半期事業報告書竝に下半期事業計畫書作成に關する件

（ロ）[illegible]に關する件

（ハ）「北方經濟研究」刊行に關する件

一、十月二日—同月七日　高橋委員長札幌、苫小牧、室蘭方面に出張す

一、十月十日　庶務打合會

（イ）研究所打合會開催の件

（ロ）會計事務引繼の件

一、十月十三日午後一時より研究所打合會

（一）挨拶

（二）[illegible]

一、十月十七日　[illegible]

一、十月十八日　[illegible]

一、十月二十日　[illegible]打合會

一、十月二十一日　[illegible]

「北方經濟研究」第一號の刊行

本校の研究機關誌「商學討究」は久しきに亙り、本邦經濟學界に[illegible]

[illegible]

「商學討究」改題　北方經濟研究所　發行

北方經濟研究

新卷第一號（通卷第十九卷上册）

改題の辭　　菅米地英俊

北方研究

北方圏の地政學的考察　　高橋次郎（一）

米國防衛の前哨地アラスカ　　島谷關三（三）

アラスカへのルート　　花村哲夫（四）

北海道產除蟲菊　　玉井武（六）

經濟論攷

皇國經濟論　　南亮三郎（八）

統制會社の理論　　岡本理一（二）

工業立地に於ける國家的干渉　　水谷　（三）

北方經濟日誌（昭和十九年一月—五月）（三）

○定價　[illegible]

○註文は[illegible]

○[illegible]

資本主義經濟の計畫理論

木曾榮作

小引

資本主義經濟の計畫は、既に「統制經濟」の名の下に行はれつつある。然し、その理論付けは未だ必ずしも充分とは言ひ難い。本邦學界に於てのみならず、外國の學界にも明瞭精緻なる計畫理論の文獻は多く見出されない。とは言へ、この計畫理論の體系化は今日に於ける最も重要なる學問的課題でなければならない。

本稿は A. W. Baster 著の Planning under Capitalism, London 1935, 中の一章たる The Planned Price Economy の解説を企てたるものである。

本書は、英國に於ける經濟計畫の問題を理論的に分析する事を主眼とするものではあるが、計畫理論の研究上示唆を受くる所鮮くないことを確信して已まない。

一、「計畫」の意義

資本主義經濟の經濟機構の「非計畫的」と「計畫的」との區別は何處に求むべきであらうか。「價格化」に求むべきか、或は「企業合同」に求むべきか。バスターは「計畫化」の指標は、「企業合同」又は「價格化」を統制すべき主體に之を求むべきものと考へる。

この區別は決して恣意的のものではない。或る意味に於ては凡ゆる經濟組織は計畫的ならざるはない。企業人が生産及び販賣、雇傭、投資、價格、生産方法の選擇を決定する場合に、何れも自己の意義に於ける「計畫」に外ならない。然し、かゝる意義の「計畫」は、經濟的環境の變化に適應する企業人の主觀的努力に過ぎない。吾人が意味する「計畫」は、かゝる個人的企業家の作用せざるに至つた時に於て現れるもので[illegible]

かくして、資本主義經濟に於ける「計畫」は次の如く定義付けられよう。即ち「資本主義經濟の價格機構を、一又は數個の團體によつて補完することである」。この計畫は經濟能力に干渉するものではなく、むしろその機能を阻害するものを排除するか、或は個人的企業家のなし得ざる職能を統制的に企圖することによつて經濟能力の機能を強化せしむるものである。

二、「計畫」の三つの型

資本主義經濟は一つの價格經濟であることは言を俟たない所であるが、この價格經濟の特質は實にその「個別的」、「競爭的」、「自由的」、「非規制的」、「非計畫的」[illegible]に存する。

然らば、資本主義經濟のこの基本的特質は、計畫の經濟に於て如何なる程度に保持し得らるるであらうか。かくして、吾々は、價格機構が[illegible]その地位を[illegible]に保持せしむる[illegible]計畫的價格經濟の[illegible]に達することとなる。

かゝる意味に於ける經濟にあつては、三つの計畫が類型化せられよう。即ち（一）主として下部よりの計畫、（二）上部よりの計畫、及び（三）漸次上部より下部への計畫ではあるが、[illegible]の中心機關により行はるるもの、三つが之である。

第一の型の、「下部よりの計畫」は、或る特殊の産業に於て、その産業に共通してはゐるが、個人的企業家の範圍を超えた問題を取扱ふに當つての生産者の協力なりと定義し得よう。かゝる協力は右の如き性質の問題が特にも切實なる産業にあつては、久しくその必要が認められてゐる所である。之等の問題中、特に顯著なるものは、過剩設備、調査、販賣、大量購買及び共同研究等である。

就中、過剩設備と販賣に關する問題は最も枢要の問題である。先づ、過剩設備の問題について觀るに、之は一部は技術的進歩、海外の生産能力の増大、世界市場の販路の縮小等の原因、また一部には大戰中の[illegible]擴張に基因して、過剩設備となつてゐる。企業設備の過剩化は、特にも販路の縮少に直面して、[illegible]統一的行動を[illegible]ならしめた主因の一をなしてゐる。

尤も、設備過剩の問題は、必ずしも新しいものではない。一九一九年に任命の「企業合同調査委員會」に於て、家具製造業者の生産プールに就いての證人は次の如く陳述してゐる。「非能率的のものが市場より姿を沒することは進歩の法則である。實際に於てはそれは止らうとはしない。故に、その進歩は阻害される。そこで同業者はそれに[illegible]を與へて退かしめることが、費用に於て遙かに安いが故に[illegible]、例へば、全取引高の三分の一を行ふために競爭してゐた非能率的企業者が、時々、又は全く取引をせずに濟ますことになれば、その部分のものはより能率的企業者によつて行はるることとなり、より經濟的に行はるることとなる。より多くの利益をプールにより得ることが出來る。他方、非能率的企業者はプールより補償を得らるるのである。」

然るに、販路の狀況よりは獨立的存在が認め得られざる企業乃至は[illegible]に抗し得るのは、顧客に對する生産者の不合理なる[illegible]と、消費者の情勢的商品獲得傾向に基くものと言ひ得よう。

また、統制的に非能率的の企業者を淘汰せしむるものとしては次の如きものもある。[illegible]

[illegible]

計畫の型は、國家の機關の設置を要請するものではなく、國家はこの計畫の實行に必要なる[illegible]

三、結語

以上三つの型の計畫經濟は[illegible]

[illegible]

地理的類型

高橋次郎

【一】

ブルノー・ディートリヒ（Bruno Dietrich）は一九三三年に著はした「經濟地理學――方法・問題・課題」なる小著に於いて、「立地」の問題を經濟地理學と經濟學とは同じ樣な方法で取扱ふ。この二つの學問が解明すべき事實は一つの經濟現象の空間的に制約された存在、即ち空間的に限定された經濟發展である」と述べてゐる。しかし、吾々はこれに反對の意見をもつ。同じく「立地」（Standort）と云ふ言葉を取扱ふにしても、經濟理論と經濟地理學とではその方法を異にしなければならない。

具體的なる經濟的現實態の分析から出發して、特殊的認識に到達するための假設として吾々は「理想型」（Idealtypus）を作つ。これによつて吾々は素朴なる直觀が偶然と必然とを區別することが可能となる。理想型は、それによつて見ゆる時と處とに於いて凡ての具體的經濟秩序の構成される一切の要素を分離として統括するのみならず、諸個々の經濟性の機作を示してその內部に於いて個々の機作內で行はれる經濟過程が見出によつて把握し得るのである。故に、理想型は歷史的、個別的現實態と體系認識に必要なる一般理論的分析との間の不斷の連續である。

理想型は マツクス・ウエバーの名と結びつけて考へられる。

彼は理想型を如何に形成すべきかを正當に認知してゐたけれども、そこには重大なる缺陷を包藏して居たと云へる。

即ち、彼は「理想型」と「實在型」（Realtypus）とを區別せず、從つて又兩者の論理的性格を嚴密に區別しなかつたのである。實在型としては、例へば「經濟段階」とか「經濟體制」とかが擧げられる。これは歷史的に觀た實在型であるが、地理的に觀ると「生活空間」の如き種別がある。「問題を集合して計地的に解明し、問題を一般化して解決に近付かんとする」アリストテレスの類型も亦「現實型」に近いものである。

マツクス・ウエバーは、彼よりも遙か以前に理想型の研究をなしたものにフオン・チユーネンのあることを指摘して居る。チユーネンは素晴らしい形態で之をなし、その論理的性格について二、三の示唆ある見解を示した。近代の理論が假に久しくこれを利用した事は、云ふまでもない。チユーネンは農業立地に就て理論的に研究したが、アルフレツド・ウエバーは工業立地に就て同樣な抽象的取扱を行つた。然かる意味に於ては、プレデール（Predöhl）が一般經濟理論に立地理論の役割をも付け得る事を主張してゐるのは、正しい。

併し乍ら、立地の問題は單に抽象的に一般的に經濟理論として扱ふに止らず、更にその取扱をうけるに又具體的に特殊的に研究せられるものである。「經濟地理學は、「立地論」を經濟理論から供給して貰ふべき一般的抽象性に於ける「立地」を確認しなければならない。

【二】

扨て、立地の問題を經濟理論と經濟地理學とを同じ樣な方法で取り扱ふと云ふディートリヒは、實際に立地問題を如何に取扱つてゐるか？彼によると、經濟地理學は「局所」（Lokalisation）と「局所化」（Lokalisierung）との二つの觀點から觀られる。

立地は單に現に存在する或るものではなく、生成した或るもの、即ち運動のモメントを保有せる或るものである。過程の製品の造りに生成されたものが媒介に於いて特別の所に空間的に限定されて「生成されたもの」である。これ即ち「局所」である。局所は、場所に制約された、又は場所的に限定されたものであり、觀念的には一方の密接であり、從つて又た[illegible]的であるのみ。「局所化」とは工場立地の、目的に向つての努力によつて局所化すると云はれなければならない。

局所化過程は、その時々の立地に現はれる。立地は凡て同じ條件の下に發生したものではない。これに就ての認識に於いて、經濟理論の側からは、一般的立地因子論を形成する樣になり、經濟地理學の側からは、立地によつて決定的なる要約的原因を立地條件或ひは立地原因として論究する、と云ふのが、ディートリヒの見解である。

斯くて、經濟地理學的把握は、工業原料と其の製品の加工、即ち原料採取と精製加工もこれと同樣の關係に置かれる。一局所にあつては、工業勞働の基礎が存在してこれが人間によつて完成されるものであり、之れに反して局所化にあつては一部分それが存在してゐるに過ぎず、人間によつて初めて創造されるのである。それは原料と工業的加工との關係の如きものとなる。局所と局所化とは必ずしも一致するものではない。吾々はダイヤモンド採掘は南アフリカに附屬するとは云ふが、ダイヤモンド研磨工業はフランダース事になる。從つて、それは學術的分類を求めんとすることによつて研究の分類を促す。今、共役説的なものをディートリヒの作成せる表によつて對照してみると、右表の如くなる。

工場立地の制約性

ウエバー	材料技術的制約	勞働技術的制約		消費技術的制約
[illegible]	原料技術指向	勞働市場指向		消費市場指向
[illegible]	土地定着	土地無關	土地緩衝	土地以外
[illegible]	原料技術的制約	勞働力制約	交通技術的制約	市場技術的制約
ディートリヒ	原料技術的制約 D.A.志向として全	勞力技術的制約	交通技術的制約 A.B.人材料的	消費技術的制約 補助材料技術的制約

ディートリヒは前述せる樣な立地を基礎として技術的制約の本質を實例に於いて說明してゐる。斷樣にして、ディートリヒは單なる實際の存在と云ふ「局所」の圈から一歩進んで加工々業の立地を云ふ「局所化」の圈へと進出してゐる。これは正しく一つの進步であると云へる。

【三】

[illegible]の中に見出されるものは立地の類型と雖も、またそれを理解する主體との關係に於て把握されなければならないであらう。それ故に、それはそれを理解する主體的立場に對して直接的に與へられるものとして考へざるを得ない。かかる立場に立つことは、われわれが一定の世界觀の設定を前提とするものなることを物語る。いまや吾々は嘗つての如き個人的營利主義や自由主義の立場に在ることは許されず、國家從屬の統制主義的なる全體的立場に立たざるを得ないのである。

この樣な全體的立場に立つ限りに於いては、立地の現象も亦營利的立場の下に立つ事を許されず、全體的なる國防的見地からする國土計畫に從はなければならないのは云ふまでもない。そして、斯かる國土計畫に基く立地を指導する主體性に就いて云へば、指導的國家に關する限り、それは今や一國民經濟的視野にのみ閉ぢこもることを許されず、更に眼光を大にして廣域經濟圈全體にまで光被しなければならないことになる。すなはち、廣域經濟圈全體の立場から地理的類型を存在論的に認識しなければならなくなるのである。

斯様にして、われわれは今やアルフレツド・ウエバー及びその一統の學者のなした樣な方向に於いて個々の資本主義的企業の私益と云ふ觀點からのみ出發することは許されず、統制經濟乃至國防經濟の諸條件の下に於ける生産力の擴充が經濟圈域の具體的指導の現實となり、また國家意思に基く計畫的作用となることを問題としなければならない。大本營設置以來の觀點に着目せられ、立地論は一個の立場から地理が技術的に取扱はれてゐるが、立地とは特殊な地理的環境或ひは國土政策の領域に於いて特殊に決定せられた產業經營の立場として理解すべきであると主張し、立地を決定する條件及び因子は全般的立場から再批判されねばならないと說く。ここに課られる結論は、自由主義時代に於ける使用價値に基く一國民經濟の基礎の上に、乃至は廣域經濟の基礎の上に生產力の「生活上正しい」配置を試みる配置を付び、以つて廣域圈に於ける經濟的補完關係を確立することによつて、その[illegible]で解釋される自然科學的概念としての「立地」ではなくなる。

アウタルキーを實現したければならないと云ふことである。

類型（Typus）と云ふ概念は、プラトー、就中アリストテレスによつて規定せる科學的內容を與へられた。類型は、個々の經濟的事實がその內容の內容を失ふ事なく、しかも全體として同一の意味を充たすものである。それに立地問題が生ずる。類型化は個別的なる經濟的事象を結合するものであるが、この事象の個別化の發展としては質の一ならず對性その外に事象の客觀的なるものが考へられなければならない。個々の位置を占める事象は、唯一の場所を分有するものとして相互に關聯を持つものとして考へられ、その結果として經濟的なる空間を形成することになる。この樣な空間が要するに「經濟空間」に外ならない。更にこれは單なる「環境」とは異なる。環境は吾々の生活にとり[illegible]の外的なる外部的なる事項を占めるものである。

【四】

從來、類型が社會科學特有のものとして考へられたことは、一般に承認されてゐるところである。經濟地理學の分野に於ても、然も經濟類型は地理學を問題とすべきだと主張する。又、類型化を行ふことにより空間的に地域的類型を構成するものとなるとふ。[illegible]個々の歷史的段階は、立地を何等かの立場から擧げられる諸要素の時色を持つてゐる。その特色と見出すことを目的とする。[illegible]

[illegible]

北方研究餘談
―アラスカ―

天涯生

大東亞戰爭勃發以來南方圏の國防的意義は強調すべきほどに強調せられたかに見える。さて、北方圏といへば、大東亞共榮圏の一環としての國防的重要さに於ては、南方圏に相比すべきものではあるが、輝しき數々の戰史を飾るべき記録には、南方圏ほどには恵まれてゐないといふためか、人々の注意から忘れ勝ちのやうでもある。然し、このことと國防的重要性とは全然別個に考へるべきである。

由來、吾々の北洋知識は[illegible]によつて規制さるると言ひ得なくはない。[illegible]一例を引いて見る。國内の友人や知人に手紙を書くことは案外氣易くするのに、外國に居る友人への通信に於いては意外なおつくうさを覺えるといふ事實を、吾々の日常生活に於いて始終經驗する所であらう。手紙を書くといふ實際上の手數に於いて、內國たると外國たるとの違ひは無い筈である。然るに、外國への通信にかゝるおつくうさを感ずるのは、他ならぬ心理的の差異に基くもので、自分で認めるのでもないのに、このやうに北洋知識に於ける心理學的にも親しいことと思ふ。

アラスカも亦かゝる圏外に置かれて、吾々の日常生活には最も縁遠い。從つてこれを補ふ知識[illegible]

[illegible]に至つては更に深いと言はざるを得ない。尤も、南方の諸地域についても決して誇り得ないのではあるが。かくて、アラスカは大東亞戰爭以前に於ては、[illegible]の好材料として取り上げられる位が山で、その地理及び資源の豐富さと、その經濟する資源の[illegible]を中心として世界に紹介せらるることに於て[illegible]見せるやうにも思はれた。

然し、戰爭はあらゆる意味に於いての變化と刺戟を與へる。アラスカもこの例外たり得ず、戰爭の新しき局面として立たされた。アラスカの本國の戰略的經營の重要性をもつて論ずるのではなく、このアラスカの戰略的意義に於て急變した事實である。

この事實の影に於ける問題の解明のためには、アラスカについての一般的知識は要請せらるべきであらう。

先づアラスカ（Alaska）といふ地名は土着民の言葉であるといふ說もある。[illegible]「大なる國」または「大陸」を意味するものであると言はれてゐる。

アラスカといふ地名の中に含めらるべき地域に就いては、政治的に承認せられてゐる如くである。現在、アメリカ合衆國の[illegible]

[illegible]に至つては更に關係は必ずしも同一ではない。一つの問題はアリューシャン列島を含むべきや否やといふことである。ここでは、アラスカ大陸に一應限定して考へる。その面積はアメリカ合衆國大陸の四分の一、人口は一九四〇年の人口調査によれば、人口七萬三千人で、其の中二萬八千人がインデアン、二萬九千人がエスキモー（この中エスキモー人とアリューシャン人と合せて一萬九千人）であり、其他は主として白人である。

[illegible]之等の住民は、[illegible]水產業、鑛業、鐵道建設等に從事し、一ケ年の數ケ月をアラスカに住むにすぎない。從つて永住人口は決して多くはない。現住民たるエスキモー人、アリウト人、スリンギツト人、アサバスカン人、ハイダー人、シムシイアン人等によつて構成せられる。原住民の人種別については、この他の說を立てる學者もある。エスキモー人とアリウト人とに二大別するとは一般的に承認せられてゐる如くである。

アメリカ合衆國のいはば北方軍事基地としてクローズアップされつつあるアラスカは、過去に遡つてその命脈を述べ立てれば、結局露領の一部であつた。先づこの前記たる大陸の發見者に就ては、無論の一致を見出し難いが、之を組織的に探險の對象とするに至つたのはロシア帝國のピーター大帝によるデンマーク生まれの海軍士官ヴィタス・ベーリングを隊長とする探險隊の派遣に求めなければならない。ベーリングのカムチャッカ、アリューシャン及びアラスカの第一回探險隊は、約三ケ年の準備をなし、一七二八年七月にカムチャッカを出發し、北緯六七度一八分の地域に達し、一七三〇年三月にペテルブルグに歸還したが、アジア大陸とアメリカ大陸とが接せざることを一應確認したとは言へ、所期の目的を遂し得なかつた。ピーター大帝は既に崩じ、その皇后カタリナ一世が繼いだ後であつたので、ベーリングの報告に異論を唱へる者はなく、[illegible]第二回の探險隊派遣をうながされたのである。この[illegible]をもして、ベーリングとチリコフが夫々「セント・ポール」と「セント・ピーター」と名付けた二隻の船に乘り込んで、兩船の名に因み[illegible]に向つて出帆した。一七四一年六月のことであつた。途中、悪天候のため兩船は間もなく離れ離れとなつた。「セント・ピーター號」でベーリングは七月十六日、北緯五八度一四分の陸地に達して「セント・イライアス山」（一八〇〇米）と呼ばるる高峰を見たのである。然しこの頃より船中には壞血病患者が續出し、探險隊長ベーリング自身も遂に病床の人となつた。そのうち「セント・ピーター號」はベーリング海の島に漂着せられ、本探險隊の殘りの乘組員がこの島に越年を餘儀なくされた。かくして、ベーリングは遂に十二月八日、この島に於て死去した。

翌年八月ペトロパヴロフスクに歸還したのは、出發以來二ケ年の間に、當初の一行の中、三十一名の探險者を出した。ベーリングの探險隊の[illegible]アラスカの發見の功績について、必ずしも一致してゐない。然し、當時の困難なる事情の下に於ける此の世界の發見は決して過少評價せらるべきではない。ベーリングの[illegible]

とベーリング探險の「カムチャッカ發見」を一括するとき何人も正しく彼の功績を認めざるを得ないであらう。

吾々は、このベーリングのアラスカ探險の說明者たるピーター大帝が、如何なる動機によつて斯かされたかについて、吾々へて見るに、大帝にとつては、アラスカは政治的對象たると共に經濟的發見の對象として取り上げられてゐたことが看取せられる。勿論、經濟的對象として問題とされる所以は當時としてはなかつた。未知の世界の自然科學的究明の對象として、最も深い關心を呼び起したのであつた。カムチャッカ帝國にあつては、アラスカの問題は殆ど等閑に附せられた。その理由は、當時ロシア帝國にとつてはかゝる遼遠の經營維持には困難な、獵業力、及び經營人口の三要素に於て缺けたる状態にあつたからである。然るに、バウロ一世の時代に移るに及んで、ユーラシア的勢力の發展がシベリアの植民の下にアラスカをロシア帝國の勢力に對するアングロ・サクソンの防禦とすべき政策の發展によつて確立に寄しんだのである。かくして、アラスカの世界史的意義は急激なる政變を要請せらるゝこととなつた。

硯滴
生ける自然と文化物

南亮三郎

秋晴れのよい天氣だのに、どうかすると霧が立ち、朝夕のやうな白い小さな虹が小ばかり現はれた庭の植込みの間を浮遊して來る。予備法はそれを見付けると「やあ雪虫だ、もう雪か近いぞ」と云つて騒いでゐる。雪――。雪の雪をきくと私も亦じつとしてはゐられない氣持にかり立てられる。

ふと聞きもしも多を想へる。その冬に讀んだ一冊の書物のことが念頭に浮んで來る。小山も冬と共に、エネルギー非生命的[illegible]の「雪に生きる」である。この書物を私は自分の娘にすすめられて讀み始めた。しかし讀み始めたら最後、私はもうそのとりこになつて、私自身の感ずる興味で讀み續けて行つた。

私はこの中で、著者が探究する雪の生ける姿を描寫してゐる箇所ほど興味ふかく讀んだ所はない。「その雪性を」であつたと云ふ、雪とは何か。「雪を研究する」もの、[illegible]

文化物は何だらうか。雪は生きてゐるのである。しかし生けるものは自然だけではない。人間の作り出した文化物もまた生きてゐる。著者はそれを千鳥の宮神社で自から發見して、こんな事を書いてゐる。「私は小屋の入口を出て、五十米程の小山の頂上に、五門程行つて見た。」……[illegible]

私はふとこの書物を開いて、雪の語る自然と文化物に「私は生ける自然と文化物との有る」と云ふことに氣付いた。[illegible]

[illegible]

第三十二回卒業式

事を困難は往く！

第三十二回 卒業式

世相の變轉、學園の改革に當り第三十二回卒業證書授與式は、先に十二回卒業をなせる開校式典を加へて、九月十七日午前十時より講堂に於て來賓、同窓會員多數參列の下に盛大に學行された。

川村三千雄教授道義科へ轉任

教授は昭和十四年三月東京文理大哲學科卒業。門司中學、東京府立第四高女教諭を經て、昨年九月文理大研究科に入學現在に至る。

寄米地校長謝禮、履歷事務貸金領收

自八月十六日 至十月十五日

金壹百圓也 [illegible]
金拾五圓也 [illegible]
[illegible]

緑丘會 會費領收

金十六圓六十七錢也 [illegible]
金十五圓也 [illegible]
金十一圓也 [illegible]
[illegible]

卒業生（第三十二回）

[illegible]

（以下次號）